

令和元年度第3回印西市地域公共交通会議 会議録

開催日時 令和元年8月8日（木）午後2時00分から
開催場所 印西市文化ホール2階多目的室
出席者 酒井和広会長、佐藤信之副会長、市東浩美委員、豊田裕子委員、茨木隆郎委員、市之瀬聡委員、石川浩久委員、菅野八重子委員、織原拯委員、加藤弘正委員、三上達也委員、徳永昌子委員、石井隆委員、岩崎員幸委員、香西邦宏委員、川俣好彦委員（代理 米本様）、飯塚孝廣委員（代理 南様）、坂口篤委員、松本直範委員、太田正明委員、銅達夫委員、増田崇委員、川嶋一郎委員、染谷豊委員
欠席者 石橋速人委員、浦川真一委員、和田賢太郎委員、成田斉委員
事務局 交通政策課 鈴木課長、渡邊副主幹、鈴木係長、成田主査、阿部主査
傍聴者 4名

次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 会議録署名委員の指名
- 4 協議事項等
 - (1) 会長及び副会長の選出
 - (2) 印西市地域公共交通網形成計画について
- 5 その他
- 6 閉会

会議録（要約）

1 開会及び委嘱状交付

(事務局) ただいまから、令和元年度第3回印西市地域公共交通会議を始めさせていただきます。まず、はじめに委嘱状の交付を行わせていただきます。この後、委員の皆様方に市長より、委嘱状を交付させていただきます。なお、印西市地域公共交通会議委員の任期につきましては、本年8月1日から2年間です。令和3年7月31日までとなります。

【委嘱状交付 その後、委員及び事務局の自己紹介】

2 出欠の報告

(事務局) 本日の出席委員は、28名中24名で、印西市地域公共交通会議設置要綱第7条第3項により成立いたしますことをご報告いたします。

(事務局) また、本日の会議につきましては、印西市地域公共交通会議設置要綱第7条第6項の規定に基づき、公開とさせていただきます。本日の会議においては、傍聴の申し出がありますので、傍聴者を入室させていただきたいと思っております。

【傍聴者入室】

(事務局) また、本日の会議でございますが、会議録作成のため、録音させていただきますので予めご了承ください。

3 会長及び副会長の選出

(事務局) まず、会長及び副会長の選出でございます。会長が選出されるまでの間は、事務局で進行を行わせていただきます。会長の選出につきましては、印西市地域公共交通会議設置要綱第4条第1項の規定により、委員の中から互選により定めることとなっております。どなたかございませんか。

(委員) 前会長でありました、酒井部長を推薦します。

(事務局) ただいま、会長に酒井委員をというご意見がございましたが、皆さまいかがでしょうか。

【異議なしの声あり】

(事務局) 異議なしの声があがりましたが、酒井委員、よろしいでしょうか。

(酒井委員) はい。

(事務局) それでは、酒井委員に会長をお願いすることとさせていただきます。では、酒井会長よりご挨拶をお願いします。

【会長挨拶】

- (事務局) ただいま、印西市地域公共交通会議の会長が決定いたしました。なお、副会長につきましては、印西市地域公共交通会議設置要綱第5条第1項の規定により、委員の中から会長が指名するとされておりますので、会長より、副会長の指名をお願いします。
- (会長) それでは、副会長の指名をさせていただきます。交通政策に精通しておりまして、長年にわたりまして委員をしていただいております、佐藤委員を指名したいと思います。よろしくをお願いします。
- (事務局) それでは、副会長は佐藤委員に決まりました。佐藤副会長よりご挨拶をお願いします。

【副会長挨拶】

- (事務局) 会長が決定しましたので、以降の進行につきましては、酒井会長をお願いします。また、会長、副会長におかれましては、会長席、副会長席へ移動をお願いします。

4 会議録署名委員の指名

- (会長) それでは、議長を務めさせていただきますので、よろしくお願いたします。協議事項に入る前に、会議録署名委員の指名をいたします。本日の会議の会議録署名委員につきましては、三上委員を指名させていただきますので、よろしくお願いたします。

5 協議事項 印西市地域公共交通網形成計画について

- (会長) それでは、次第の5(2)印西市地域公共交通網形成計画について、協議事項に入ります。事務局より説明をお願いします。
- (事務局) 印西市地域公共交通網形成計画についてご説明いたしますが、その前にお時間をいただきたいと思っております。地域公共交通網を策定するための作業を進めてまいりますが、その際に我々のサポートを行っていただく委託業者をお願いしております。後ほど詳しくご説明いたしますが、株式会社ライテックのお2人に入っておりますので、ご承知おきください。それでは、説明に入らせていただきます。

【資料1 事務局説明・株式会社ライテックの自己紹介】

- (会長) 事務局から説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますか。
- (委員) 我々の高齢者クラブの者から言われているのですが、8月1日印西市の松山下の体育館で県の剣道大会があった。500人位集まったらしいです。木下駅で乗ってこられて、バス乗られるかと思ったのでしようけども、結局バスに乗れなくて、試合が始まるので、歩いて行かれる学生さんがおられた。もう間に合わないの、途中で乗せて行っただと。その時に、その方が言われていたのが、PRが足りないの、是非それも交通会議で言ってくれということをおられました。結構松山下の体育館は大きいですから、学生の利

用が多い。学生は車が乗れないですから、バスを利用しなければならない。県内の学生さんに対してのアンケートがあって、回答があればいいと思いますので、よろしくお願いします。

(事務局) 状況から申し上げますと、この日は松山下に500名が剣道大会で集まりました。高校生の大会と聞いております。こういった大会が松山下で開催される時には、スポーツ振興課から情報をいただきますが、今回は情報もなく、そもそも高校生たちが松山下に行くにはどうやっていったらいいのか、ふれあいバスを調べて、みんな乗ってしまい、乗り切れない状況が起こってしまった。そういった子たちが、実際に間に合わないということで、道路を歩いていたのをご覧になったと思います。我々としては、ふれあいバスは、スポーツの為のというよりは、高齢者の方や市民のみなさんに乗っていただくバスですから、こういった時には、現地まで主催者側でバスを走らせた方が良いのではないかと、そういった話は担当課にもしています。高校生にもアンケートを取って欲しいということですが、資料7のネットの方で、市外から印西市に来る方の声というのもありますので、そういう部分で把握していければ。こういった部分での違った取り組み、どうやっていったらいいのかをこの先考えられる材料になるかも知れないので、そういうところでアンケートが拾えればいいと思います。

(会長) 他にご質問ご意見等ございますか。

(委員) アンケートですけど、質問事項はこれで決定なのでしょうか。

(事務局) 先ほど説明の中でもございましたけれども、この内容というのは業者さんと揉んでいる中のものとして、皆様にお見せした後に、よろしければ、市の内部に回しまして、福祉や都市の部分の担当課とお話等させていただき、固めていきたいと思っております。固まり次第、再度皆様に、こういうアンケートとなりましたということで、ご報告、郵送させていただきたいと考えております。ですので、これからまだ手を加えなければいけないものもありますし、設問もあまり多いと見た瞬間にやらなくなってしまうということもありますので、そういう人間の意識的なところも考えながら、さらに業者さんと話し合いながら、煮詰めていきたいと思っております。煮詰まり次第、皆様にご報告させていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(委員) 2点だけ。市民向けのアンケート。公共交通のアンケートだからだと思うのですが、不便地域に住んでいるものから見ますと、答える設問がほとんどない。スワン号とか、ふれあいバスとか。見た瞬間に吉田の人とかは、「ない」となってしまう。もう一つは、地域で無作為で選ぶので、どこの地域の方が見るのかわからないと思うのですが、不便を解消する目的があると思いますので、バスとか鉄道が利用されにくい方に向けての上手な設問は難しいと思いますが、それもあるとうれしいと思いました。

(事務局) ご意見いただきましたので、そのことも含めまして業者の方と調整をさせていただきたいと思っております。

(会 長) 他にご質問等ございますか。

(委 員) 無作為に3,000人選んで、公共交通に関する市民アンケートを実施する。人口のバランスとか考えて、アンケートを取っていただく。変な話、木下ばかりの人がいっぱい居てもしょうがないし、ニュータウンばかり居てもしょうがない。でも、少ない人のところへいっぱい出しても反映されない。人口のバランスと3,000人のバランスの取り方は、どう考えてらっしゃいますか。

(事務局) 今、事務局の方で考えているのは、人口から年齢のバランス、男女のバランス、地域のバランスなどは取らせていただきながら、その中で無作為にコンピュータの方で選んでいただく方法で煮詰めているところでございます。ご意見をいただきましたので、その辺も踏まえて検討していきたくと考えております。一部の地域だけが多くなってしまうことが無いような形ではいきたいと思えます。3,000という数を設定したのも、10万人の市になりますと、アンケートを1,000位の数を集めないと信憑性が無くなってしまいうのがありますので、少し多めに出せていただいた中で、1,000人の回答をいただくような形でもっていききたいということで設定させていただいております。皆様のお近くの方にアンケートが行ったり、お知り合いにも行く場合もありますので、そうした時には是非協力をしていただけるように、お願いしていただきたいと思えます。

(会 長) 他にご質問等ございますか。

(委 員) 資料2の中の、公共交通に関する市民アンケートの一番下にあります「現在、自動車運転免許証をお持ちの方のみ、次の質問にお答えください」、「運転免許書返納について」での「返納後利用したいと思う移動手段」の中に、「徒歩」、「自転車」、「バイク」というのがありますけども、返納後のバイクの運転はできないと思えます。申請による免許の取消しなので、取消しになった人がバイクを運転することはできない。この意味が、例えば、「自転車」と「ロードバイク」とかそう言うバイクであるならわかりますが、原動機付自転車だとかそれを示しているのであれば、「私、乗れるんだ」というアンケートを受け取った人がそういうように思っても困るかなと思ったので。

(事務局) 大変失礼いたしました。委員のおっしゃる通りで、免許返納後の設問ですので、免許を返納してしまったら、当然バイクも乗れませんので、この辺の矛盾が生じないように、業者さんとも相談して矛盾の生じない設問、誤解の生じない設問にさせていただきますので、よろしくお願いたします。

(会 長) 他にご質問等ございますか。

(委 員) 地域公共交通網形成計画の話で、具体的なアンケートや内容を見ると、基本的にはコミュニティバスと補助路線が中心になるという気がします。公共交通網形成計画は本来市の交通網のマスタープランとしての意味合いが、一つの大きな役割だと思えますが、そ

の部分が見えてこないところがある。資料1の1ページ目でふれあいバスとちばレインボーバスの路線バスの競合、ふれあいバス同士の競合。それから、運賃の不均衡。そうすると、ふれあいバスや補助路線を超えて、一般の民営バスとの設定に入っていきます。その話が今回出てこなかった。

それから、資料1の2の下ですけれど、印西市の市域に限界地域的なところがあることは事実でしょうが、公共交通のマスタープランの中で、もっと大きい問題があるのではないかと。都市的な地域、限界的な地域は、ミニマムの部分で足が無い、不便でどうしても生活する上で必要だというところがまずある。印西の場合には、人口10万、そしてニュータウン地域を抱えているということで、限界的な話ではなく、バスが便利になって、それによって需要が増えていく、むしろ正のスパイラルが想定できるのではないかと。という気がします。その中で、民間事業者を含めて、前向きな提案、アクティブな計画性があるという気がします。今までコミュニティバスは、人口が減って、客が減って、市の持ち出しが増えて、負のスパイラル話を中心ですが、印西市の地域公共交通のマスタープランという、一段上のレベルの話になると、もっと積極的にそういう話があるといい。今の運動公園というのは、都市施設ですから、都市内で便利にバスが使えるという、前向きな話が一つ軸としてあっていい気がしました。

(事務局) そういった点も踏まえて、検討していきたいと考えております。やはり財政的なものもございませぬ。先ほどの松山下もバス自体の乗車人数は35名しか乗れないところに500人。ということは、何台バスを回せばいいのか。そのバスは、日常的に毎日出すしかないのかといったところで、それは誰が払うのかということになると、市民が払うということになります。そうしたところも、考えなければいけないところだと思いますので、交通が不便な地域の市民の生活などを、市の現実的なところも踏まえて研究していかなければなりません。今のご意見を参考にさせていただきたいと思っております。

(委員) 先日、東京に行って、大きなイベントがあり、そこに行くのにイベントをしているところがバスを出していた。大きなイベントのときは貸すときに、ここはこういう状態だから、一気に500人は無理だということを説明すべき。一時的なものもあるし、恒常的にいっぱい乗ってくれならバスを通せばいいけれど、一緒にできない話もあると思う。もう一つ発展しているのは、牧の原周辺に行くときすごい家が建っていて、車も多くなっていて、確かに発展はしている。道路が混むのは困るが、決して後ろ向きではないという地域もあるので、明るい方に考えるのはいいことだと感じます。

(事務局) 我々も松山下に関しては貸し出している課の方に、限界というものがあるので、その辺は考えて欲しいということで、いろいろとお話はしております。ただ、向こうの方も、「駐車場が狭いため、公共交通をご利用ください」というものを出していることもあり、その辺は主催者と、貸す側も連携を組んで、情報交換しながらやっていただくよう再度お話しします。ただ、ふれあいバスが35人の枠しかないというのは、少し寂しいので、マイナスの面ばかり考えないで、プラスの面としても考えてみたいと思っております。これからも皆さんに住んでいただけるまちにしていくためには、交通の充実というのは、欠かせないと思っておりますので、お金のかかることでございませぬけど、どれだけ使え

るのか、どれだけ耐え続けられるのかというのを考えながら、いろいろ調整していきたいと思っております。今回は、3,000人のアンケートの中で、皆様がどんなことを考えているのかを聞きまして、課題や意見に対して皆様と一緒に考えて、将来的にこんなふうにしたらいのではないかなというような計画になればと思いますので、是非ご協力をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(委 員) 人口が伸びていて、自動車依存率が高い。公共交通が便利になることによって、自動車から公共交通、バスにシフトすると、それだけで採算がとれるかもしれない。そうすると民間事業者が採算性の中で、運賃収入の中で運営できる。そうすると市の持ち出しが増えるという話ではなくなるわけだから、これらを含めて公共交通が便利な都市というのはキャップレズ、スローガンみたいにしたら公共交通網形成計画というものが充実したものになる気がします。市が赤字を埋めるとか、補助をするだとか、自前でコミュニティバスを走らせるとかではなくて、民間バス事業者が、今、ちばにうバスも独立採算でやっておられるわけだから、そういうものも含めて地域の公共交通を便利にしていこう。そういうことがマスタープランには必要だと思います。

(委 員) 生活バスちばにうの話が出たので、手を挙げさせていただきました。鎌ヶ谷市のコミュニティバスをやっています。今まで3ルート3台のバスが運行していた。それをうちの方は、10人乗りのワゴン車2台で、近いルートですけど、ちょっと別ルートを走った。そういうことによって、空白地帯、交通の無いところを埋めて、お年寄りが乗り始めた。鎌ヶ谷は非競合ですけども、今まで9万人前後だったのが、13万に増えた。あるいは、他のバス会社が、1台どうしても遅れるという渋滞のコースを走っていたので、見切り発車をして、2台目が走り出すという遅れを取り戻す対策をやったがために、みなさん乗り都合がよくなった。だから、コミュニティバスを考えるときに、空白地帯をなんとか行政の方で埋めていくということが一つと、乗り勝手のいい、乗りやすい車ということを中心に考えて行けば、人は大勢乗る。これから高齢化になってくれば、免許返納者がどんどん増えてくるのは確実です。だとすれば、コミュニティバスを乗り勝手のよいバスに、どうしたら走らせるかということはこの会で議論し合うというのがやはり一番効率のいい作業と思います。

(会 長) 計画の策定につきましては、今あがりましたご意見等を生かしながら、現状の説明ということでご了解いただきたいと思います。市のマスタープランは、委員がおっしゃられたように市としての独自のものを作っていきたいと思っております。ご協力お願いしたいと思います。他にございますでしょうか。今回、印西市地域公共交通網形成計画については、現状説明ということで、ご了解いただければと思います。以上につきまして、議事についてはすべて終了といたします。ご協力ありがとうございました。

令和元年度第3回印西市地域公共交通会議の会議録は、事実と相違ないことを承認する。

令和元年10月4日

委員 三上 達也